

国立工芸館石川移転開館記念展 | 工の芸術—素材・わざ・風土



令和2年度日本博主催・共催型プロジェクト

The First of the National Crafts Museum's Grand Opening Exhibitions:
Japanese Crafts—Materials, Techniques and Regionalities

2020年10月25日（日）～2021年1月11日（月・祝）

皇居のほとりから、工芸のまちのなかへ。 国立工芸館、2020年10月25日 OPEN！



No. 1 松田権六《蒔絵螺鈿有職文簞》(部分) 1960年
東京国立近代美術館蔵 写真：森善之

東京国立近代美術館工芸館は、通称・国立工芸館として2020年10月25日、石川県金沢市に移転開館します。移転開館の第一幕を飾る本展では、「素材・わざ・風土」に着目し、近代日本工芸の名作約130点を展示します。

近年、それぞれの地方が培ってきた「風土」を新たに捉え直す動きが注目されています。日本の工芸品は、古くから花鳥風月など四季折々の自然の姿を意匠に取り入れてきたと同時に、それ自体が自然の素材から出来ているという特色を持ちます。それぞれの土地で生まれた素材に人が手を加え、生活のなかで息づいてきた工芸は、日本全国一様ではなく、実に多くの多様性をもって発展してきました。日本の近代化のなかで工芸家たちがどのように「素材—自然」と向き合ってきたか、また時代と共に「自然のイメージ」をどのように捉え直してきたか、あるいはどのように土地と「もの」の関係を紡いできたかを探り、常に更新されていく日本の「風土」を紹介します。

本展のポイント

工芸からみる「自然」と「人」。

常に更新されていく
日本の「素材」と「風土」に着目して紹介。

- ◇新しい国立工芸館の柿落しとなる開館記念展です。
- ◇国立工芸館のコレクションから選りすぐった日本の近代工芸の精華を一挙公開。
- ◇超絶技巧の名品、重要文化財《十二の鷹》。全12羽うち3羽を公開。明治時代の歴史建造物（旧陸軍第九師団司令部庁舎）の空間で、明治の「わざ」をお楽しみください。
- ◇松田権六、板谷波山、富本憲吉、北大路魯山人
—近代工芸の巨匠は皆、石川ゆかりの人々です。
- ◇石川から、日本全国の工芸の旅へ。
各地が生活のなかで培ってきた「風土」を新たに捉え直します。



No. 2 飯塚環珮《花籃 あんこう》1957年 東京国立近代美術館蔵 写真：森善之

第一章 素材とわざの因数分解

工芸作品の名前はたいへん長くて、ややこしい。漢字だらけで、どこで意味を切ったらいいのか分からない。今回はあえて、そんなとっつきにくい工芸作品の「名前」に着目します。工芸作品は、「素材」と「わざ」の掛け合わせ。タイトルの長さは、自然から取り出してきた「素材」が「工芸作品」になるまでに、どれだけの工程が積み上げられているか、という証でもあります。名づけのルールと仕組みさえ押さえれば、それらは作品に施された複数の「わざ」を発見するためのヒントになります。



No. 3 加守田章二《曲線彫文壺》1970年
東京国立近代美術館蔵 写真：森善之



No. 4 富本憲吉《色絵染付菱小格子文長手箱》1941年
東京国立近代美術館蔵 写真：森善之



No. 5 板谷波山《水華彩磁唐花文花瓶》1929年
東京国立近代美術館蔵 写真：エス・アンド・ティ フォト



No. 6 桂盛行《鶉四分一打出水滴》1971年
東京国立近代美術館蔵 写真：森善之



No. 7 音丸耕堂《堆漆紅梅香合》1969年頃
東京国立近代美術館蔵 写真：森善之

第二章 「自然」のイメージを更新する

日本の工芸品は、古くから花鳥風月など四季折々の自然の姿を意匠に取り入れてきたと同時に、それ自体が自然の素材から出来ているという特色を持ちます。「超絶技巧」の明治時代から、ハイテクノロジーの現代まで、日本の近代化のなかで工芸家たちは「自然のイメージ」をどのように捉え直してきたのでしょうか。



No. 8 鈴木長吉《十二の鷹》(部分) 1893年 重要文化財
東京国立近代美術館蔵 写真：エス・アンド・ティ フォト



No. 9 七代錦光山宗兵衛《上絵金彩花鳥図蓋付飾壺》
1884-97年頃 東京国立近代美術館蔵 写真：森善之



No. 10 増村益城《乾漆溜塗喰籠 亀甲》1991年
東京国立近代美術館蔵 写真：森善之



No. 11 志村ふくみ《袖織着物 鈴虫》(部分) 1959年
東京国立近代美術館蔵 写真：森善之



No. 12 小島有香子《積層硝子皿 月華》2013年
東京国立近代美術館蔵 写真：森善之

第三章 風土—場所ともの

最後に、「場所」と「もの」と「人」の関係を考えます。このセクションでは、場所ともの関係を軸に配列しています。沖縄からスタートして、その土地ゆかりの人と作品を、様々な素材を横断しながら辿り、最後はここ石川の地で締めくくります。近代日本の工芸家たちはどのように土地と「もの」の関係を紡いできたのでしょうか。



No. 13 富本憲吉《色絵草花文角鉢》1937年
東京国立近代美術館蔵 写真：森善之



No. 14 角偉三郎《溜漆碗》1992年
東京国立近代美術館蔵 写真：森善之



No. 15 左 鈴木俊帆《プラントレーマー杯》制作年不詳
右 鈴木俊帆《イチゴプラントレーマー杯》制作年不詳
ともに東京国立近代美術館蔵 写真：森善之



No. 16 鈴木宇助庵(寅重郎)
《越後上布 市松草花文着尺》(部分)
1958年 東京国立近代美術館蔵 写真：森善之



No. 17 松田権六《片身髹塗分漆碗》1939年頃
東京国立近代美術館蔵 写真：森善之

開催概要

展覧会名(日)	国立工芸館石川移転開館記念展 I 工の芸術—素材・わざ・風土
展覧会名(英)	The First of the National Crafts Museum's Grand Opening Exhibitions: Japanese Crafts—Materials, Techniques and Regionalities
会期	2020年10月25日(日)～2021年1月11日(月・祝)
開館時間	午前9時30分～午後5時30分 ※入館は閉館の30分前まで
休館日	月曜日(ただし10月26日、11月23日、1月11日は開館)、11月24日、年末年始(12月28日～1月1日)
主催	東京国立近代美術館、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会
会場	国立工芸館(東京国立近代美術館工芸館) 〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2
アクセス	JR金沢駅兼六園口(東口)より バスにて 【路線バス】 3番乗り場：18系統に乗車、「広坂・21世紀美術館」下車徒歩7分 7番乗り場：どの系統でも乗車可、「広坂・21世紀美術館」下車徒歩7～9分 6番乗り場：どの系統でも乗車可、「出羽町」下車徒歩7分 車にて 北陸自動車道金沢西ICまたは金沢森本ICから20～30分。 近隣に文化施設共用駐車場(無料)があります。
観覧料	一般 500円 大学生 300円 ※高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方と付添者1名までは無料
※本展の特記事項	来館日時指定・定員制を導入予定です。 詳細は公式WEB(https://www.momat.go.jp/cg/)でご確認ください。

なお、記者発表会・内見会につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催方法について検討中です。ご案内出来るようであれば、改めてご案内申し上げます。

報道関係の方の
お問い合わせ先

国立工芸館(東京国立近代美術館工芸館)
展覧会担当/花井 広報担当/小島・島田
TEL: 076-221-1955(広報直通) E-mail: koge-pr@momat.go.jp

掲載用お問い合わせ

TEL: 050-5541-8600(ハローダイヤル)

公式HP

<https://www.momat.go.jp/cg/>

広報用図版 請求票

FAX : 076-221-1969 広報担当 行

発信日 年 月 日

<input type="checkbox"/>	No.	作品	<input type="checkbox"/>	No.	作品
	1	まつだごんろく まきえらでんゆうそくもんはこ 松田権六《蒔絵螺鈿有職文笥》(部分) 1960年		11	しむら つむぎおりきもの すずむし 志村ふくみ《絨織着物 鈴虫》(部分) 1959年
	2	いいつかろうかんさい はなご 飯塚琅玕齋《花籃 あんこう》1957年		12	こじまゆかこ せきそうがらすざら げっか 小島有香子《積層硝子皿 月華》2013年
	3	かもだしょうじ きょくせんちゅうもんつぽ 加守田章二《曲線彫文壺》1970年		13	とみもとけんきち いろえそうかもんかくばち 富本憲吉《色絵草花文角鉢》1937年
	4	とみもとけんきち いろえそめつけひしごうしもんながてぼこ 富本憲吉《色絵染付菱小格子文長手箱》1941年		14	かどいさぶろう ためうるしわん 角偉三郎《溜漆椀》1992年
	5	いたやはざん ひょうかさいじからはなもんかびん 板谷波山《氷華彩磁唐花文花瓶》1929年		15	ふなきしずほ 左 船木倭帆《プラントレーマー杯》制作年不詳
	6	かつらもりゆき うずらしぶいちうちだしすいてき 桂盛行《鶉四分一打出水滴》1971年			ふなきしずほ 右 船木倭帆《イチゴプラントレーマー杯》制作年不詳
	7	おとまるこうどう ついしつこうばいこうどう 音丸耕堂《推漆紅梅香合》1969年頃		16	すずきちよほうあん (とらじゅうろう) えちごじょうふ いちまつそうかもんきじゃく 鈴木宇紡庵(寅重郎)《越後上布 市松草花文着尺》(部分) 1958年
	8	すずきちよまぢ じゅうにのたか 鈴木長吉《十二の鷹》(部分) 1893年 重要文化財		17	まつだごんろく かたみがわりぬりわけうるしわん 松田権六《片身替塗分漆椀》1939年頃
	9	きんこうざんそうべい うわえきんさいかちようずふたつきかざりつぽ 七代錦光山宗兵衛《上絵金彩花鳥図蓋付飾壺》1884-97年頃			
	10	ますむらましき かんしつためぬりじまろう きつこう 増村益城《乾漆溜塗喰籠 亀甲》1991年			

*上記作品はすべて東京国立近代美術館蔵

ご希望の図版の左枠内に✓を入れてFAXまたはメールでお送りください。

■クレジット 1-4,6,7,9-17は「写真：森善之」と表記してください。
 5,8は「写真：エス・アンド・ティ フォト」と表記してください。

■プレス・イメージ貸出条件

1. 画像は、展覧会広報のみにご使用ください。
2. データを第三者に渡すことは禁じます。使用后、画像データは消去してください。
3. 画像は全図で使用してください。部分使用やトリミング、作品に文字を重ねることはできません。
4. 画像を掲載される際には、貸出時に添付するクレジットをご記載ください。
5. 掲載紙(誌)は、1部広報担当宛にご寄贈ください。webサイトの場合は、掲載時にお知らせください。

※画像データ(JPEG)にてお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションもご確認ください。

※掲載前に、校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

御芳名

貴社名

出版物・放送番組・webサイト名など(発行日等) :

URL <https://www.>

TEL

FAX

E-MAIL

*展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券をご用意しております。

プレゼント用招待券を 希望する (5組 10枚) / 希望しない
 招待券送付先 : 〒

報道関係のお問合せ先

国立工芸館 (東京国立近代美術館工芸館) 広報担当/小島・島田
 TEL : 076-221-1955 (広報直通) FAX : 076-221-1969
 E-mail : koge-pr@momat.go.jp 公式HP: <https://www.momat.go.jp/cg/>